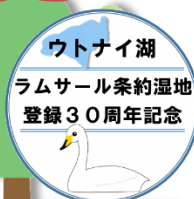




No.207

ウトナイ湖通信

2021年8月号



ウトナイ湖野生鳥獣保護センター 発行

トピックス

6月27日 ボランティア体験 講座

「自然情報収集体験 初夏に見られるウトナイ湖の自然編」を開催

野生鳥獣保護センターのイベント、調査、展示物作成、清掃等の活動は、日ごろ当センターの登録ボランティアの皆さんにもご協力いただいています。これらのボランティア活動を、広く多くの方に知っていただき、理解を深めていただくため、定期的に標記の講座を開催しています。

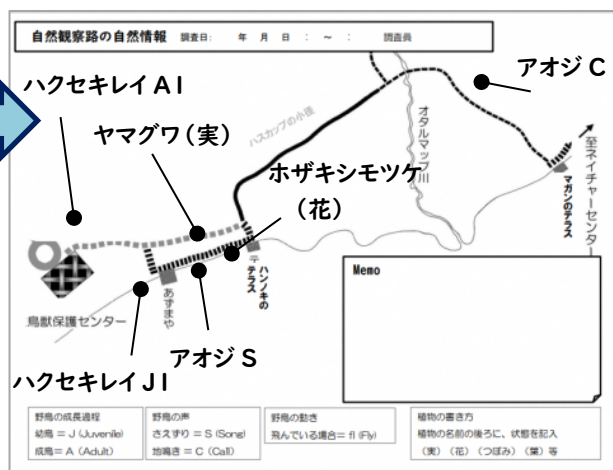
今回は、月に1回行なっている「自然情報収集調査」を、5名の参加者に体験いただきました。見られた自然のおすすめ情報は「自然紹介カード」に記入いただき、館内に掲示しています。

体験①【自然情報を集めて、記録しよう!】

自然観察路を歩き、今見られる自然情報を集めました



室内オリエンテーションで聞いた自然情報の記入方法で、マップに記録する参加者



記入例:
ハクセキレイ(成鳥)
=A(Adult)



記入例:
ハクセキレイ(幼鳥)
=J(Juvenile)



記入例:
アオジのさえずり
=S(Song)



記入例:
アオジの地鳴き
=C(Call)



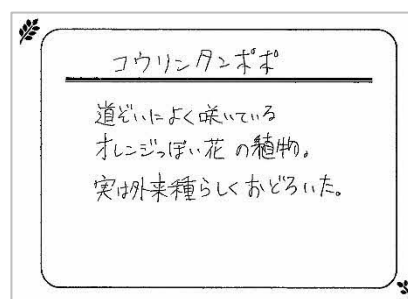
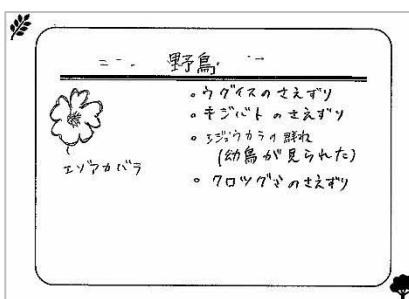
記入例:
ホザキシモツケ(花)



記入例:
ヤマグワ(実)

体験②【来館者におすすめの自然紹介カードを作ろう!】

集めた自然情報の中から、来館者におすすめの情報を選びました



【自然観察路情報】観察された生きもの

2021年7月4日（日）10:00～11:55

《野鳥》センダイムシクイ、ウグイス、アオジ、ベニマシコ、クロツグミ、ハシブトガラ
シジュウカラ、オジロワシ

《植物》【花】ホザキシモツケ、オニシモツケ、エゾノサワアザミ、ハナニガナ、オトギリソウ、クサノオウ、クマイチゴ、ナワシロイチゴ、エゾノレンリソウ、コウリンタンポポ
キバナノコウリンタンポポ、ムラサキツメクサ、ノハラムラサキ 【葉】ハンゴンソウ

【実】ミヤマザクラ、ズミ、ヤマグワ、エゾニワトコ、カラコギカエデ、マムシグサ

【若い実】ミズキ、マユミ、チョウセンゴミシ、カンボク、エゾノクロウメモドキ

《その他》シマリス、エゾシカ、シオヤトンボ、シオカラトンボ、セスジイトトンボ、ヨツボシヒラタシデムシ、ハンノキハムシ、イタヤハマキチョッキリ、オバボタル、エゾベニヒラタムシ、アカヤマアリ、クロヤマアリ、フタスジチョウ、クロヒカゲ、キマダラヒカゲの仲間
オオボシオオスガ（幼虫・巣）、ヤマトコマチグモ（産室）



ホザキシモツケ

【水鳥カウント調査結果】

2021年7月15日（木）15:00～16:00

観察された水鳥、ワシ・タカ類 *（）内は、個体数の意味
オオジシギ(1羽)、ミサゴ(1羽)、トビ(3羽)、オジロワシ(2羽)、チュウヒ(2羽)



オオジシギ

8月の自然予報

夏の植物の開花が楽しめます。

ミソバ

（タデ科）ピンク色の花



湿地を好む植物で、湖岸沿いや木道付近（冠水しやすい所）などに見られることが多い。花は小さいため、独特な形の葉を探すと見つけやすい。



ウトナイ湖やその周辺では、生きもの（動植物、昆虫、魚類等）の採取はできません。

ツリフネソウ

（ツリフネソウ科）ピンク色の花



ぶら下がったような独特な形の細長い花は全体で4～6cmほど。自然観察路の林など、木々で日がさえぎられているあたりに見られることが多い。



サワギキョウ

（キキョウ科）
紫色の花

高さ50cm～80cmほどになる。
湖岸沿いや木道の脇などに見られることが多い。



ハッカ

（シソ科）
薄紫色の花

湿地を好む植物で、湖岸沿いや木道付近（冠水しやすい所）などで見られる。
茎を取り囲むような、密集した花がつく。

ウトナイいきもの図鑑

【メジロ】

全長約 12cm。雌雄同色。目の周りが白い。全体は鮮やかな黄緑色で、ウグイスと間違えられることもある。（ウグイスは茶褐色）

夏鳥として春に渡ってくるが、例年 8 月から 10 月頃までが、観察しやすい。

「チー、チー」と鳴き、木の実（ウトナイ湖ではマユミやミズキ）に集まる姿も見られる。



ウトナイ検定

*ウトナイ湖に関するクイズ

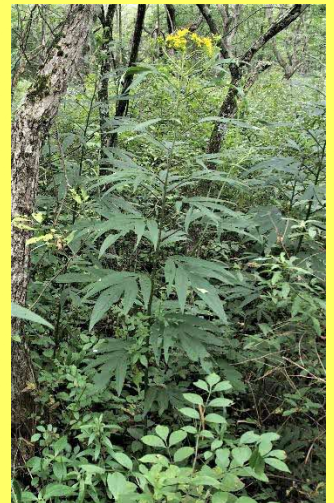
毎回、その月にあわせたテーマで出題しています。
あなたもウトナイ博士になれる？かも。

Q.

林の木道脇に見られる
背の高い植物

ハンゴンソウ。

8 月には黄色い花を
咲かせます。



さて、名前の漢字は
どのように
書くでしょうか？

(あ) 半言草

(い) 反魂草

(う) 判子草

答えは最後のページです。

傷病鳥獣ルームから



当センターでは、国指定ウトナイ湖鳥獣保護区とその周辺（苫小牧市行政区域内）において人為的な原因で保護された傷病鳥獣の救護・リハビリを行っています。その活動の一端をみなさまに知っていただくコーナーとして、ここでご紹介いたします。

アオサギ



鋭いくちばしを
しています

初診時



ケージ内

原因：高所落下もしくは、人工物衝突疑い

6 月 9 日 16：00 頃、市内の住宅街で動けずにいたところを市民が発見し、市役所へ通報。市職員が個体を保護し、当センターへ搬送。

明らかな外傷は認めなかったが、左足をかばうように歩行。初日は極度の興奮状態だったため安静措置とし、翌日身体検査を実施。左大腿骨に骨折を認め、外固定にて処置。巣立ち前後の個体だったため、高所（巣）から落下したか、人工物等に衝突したものと思われる。

6 月 12 日 強制給餌をこころみるも、餌をまったく受けつけず、搬入より 3 日後、死亡。

アオサギ（ペリカン目 サギ科）

全長 93cm。雌雄同色。日本産サギ類の中で最大の種です。北海道では一般的に夏鳥として知られていますが、一部は越冬します。ほぼ全道で繁殖し、湿原や湖沼、河川に隣接した落葉広葉樹林やカラマツ林などにコロニーを形成し、樹上に巣をつくり繁殖します。

ウトナイ湖野生鳥獣保護センター



【ボランティア体験 講座】

～ウトナイ湖の自然情報収集調査体験～
秋に見られるウトナイ湖の自然 編



2021年9月26日（日） 10:00～12:00

対象：高校生以上 定員：10名（先着順）

申し込み：9月1日（水）～24日（金）17:00まで 電話（0144-58-2231）へ
※月曜日（月曜日が祝日の場合はその翌日）は休館日です。



野鳥をはじめとした、多くの動植物が見られるウトナイ湖。
どんな自然があるかレンジャーと一緒に調査しませんか。
自然観察が初めての方も、お気軽にお申込みください。

※新型コロナウイルス感染拡大防止の緊急事態宣言などで、中止となる可能性があります。
ご了承ください。

市民ギャラリー

環境省 アクティブ・レンジャー写真展 「北の自然の舞台裏」2021-2022

日時：開催中（8/25まで展示）
展示：環境省
内容：環境省のアクティブ・レンジャーの
舞台裏の写真展です。北海道の豊
かな自然を、写真を通して見るこ
とができます。



お知らせ

令和3年度 野鳥絵画展

日時：開催中（8/19の16:00まで展示）
展示：北海道環境生活部環境局自然環境課
野生鳥獣係
内容：道内の児童や生徒の皆さんが描いた
素敵な野鳥の絵画が並びます。

2階の東側（窓際）および1階展示室の
東側（窓際）に展示します。



◆ウトナイ湖◆

周囲約9km、面積約275ha、平均水深約0.6mの淡水湖です。

鳥類はこれまでに約270種が確認され、ガン・カモ・ハクチョウなどの渡り鳥にとって重要な中継地、越冬地となっています。このためウトナイ湖は、国指定鳥獣保護区特別保護地区、ラムサール条約湿地、東アジア・オーストラリア地域渡り性水鳥重要生息地ネットワークに指定、登録されています。

◆ウトナイ湖野生鳥獣保護センター◆

環境省が「野生鳥獣との共生環境整備事業」により建設し、苫小牧市と共同管理する施設です。
また、苫小牧市が業務の一部を（公財）日本野鳥の会に委託しています。

【利用案内】

〒059-1365 苫小牧市植苗 156-26 TEL. 0144-58-2231 / FAX. 0144-51-8600

入館無料 / 開館時間：午前9時～午後5時 / 休館日：毎週月曜日（祝日の場合は翌日）及び年末年始



「ウトナイ湖野生鳥獣保護センター」は、環境省が「野生鳥獣との共生環境整備事業」により建設し、苫小牧市と共同管理する施設です。また、苫小牧市が業務の一部を（公財）日本野鳥の会に委託しています。

「ウトナイ湖野生鳥獣保護センター」は、環境省が「野生鳥獣との共生環境整備事業」により建設し、苫小牧市と共同管理する施設です。また、苫小牧市が業務の一部を（公財）日本野鳥の会に委託しています。

「ウトナイ湖野生鳥獣保護センター」は、環境省が「野生鳥獣との共生環境整備事業」により建設し、苫小牧市と共同管理する施設です。また、苫小牧市が業務の一部を（公財）日本野鳥の会に委託しています。